



かじき木だより

題字
木ノ下 正豊 誠

体育会系的文化人を目指して

校長 黒木 浩一



リスク・ヘッジという言葉があります。もともとは経済用語ですが、最近では危険回避の意味でより広範に用いられるようになりました。インフルエンザが流行しそうになるとマスクをするのもその例です。

子育てにもリスク・ヘッジはつきものです。子どもの健やかな成長を願い、親は子どもを危険から遠ざけるよう努力します。赤ちゃんのころは周りから危険物を遠ざけ、幼稚園には手をつないで通います。登下校中に小学生が悲惨な事件に遭つたという報道があれば、集団下校とともにすぐさま家庭でも対策を講じます。



「親父の会」発足への想い

PTA会長 鎌田 一典

去る一月十六日加音ホールにて、姶良市PTA連絡協議会と姶良市おやじの会の共催による「父親研修会」が開催され、その中で姶良市教育委員会教育長の小倉寛恒様の「良いおやじとは、昔、今、これから」と題した講話がありました。

その講話の中であるほど感じさせられたことは、昭和三十年代後半の産業構造の転換期を境に、それまでは権威的で寄り難い存在であった父親の立場が、高度経済成長の時代が順調に進むにつれ、親に経済的精神的な余裕が生まれることにより、子供の教育的な部分を塾や習い事など外部委託するようになってきたこと

第24号
2011.3.1
加治木高等学校
PTA発行

校長・PTA会長あいさつ	P1
生徒指導・保健・進路指導の各部より	P2
学校行事の感想	P3
卒業生へはげましの言葉	P4
部活動大会入賞記録	P5
一日遠行・卒業に寄せてほか	P6

中学生になると危険に対する予測能力や対応力がついてきます。しかし新たな危険も生じます。いじめ問題や出会い系サイト等の問題がそれです。できるだけ携帯電話を持たせまいとしたり、学校での交友関係にそれまで以上に気を配つたりと、親の苦労は絶えません。このようにさまざまな危険から子どもを守るために、親はリスク・ヘッジに腐心します。まさに危険回避です。しかしヘッジにはもうひとつ側面があることを忘れてはなりません。守りではなく攻めとしての性格の側面が……。

もともとヘッジ(hedge)には、「押さえ」「保険」といった意味があります。もちろんリスクを回避する点では目的は同じです。しかしここには将来のリスクを予定して、それに備え立ち向かうといった積極的な響きがあります。具体的にはどのようなことでしょう。

最近のフレームのひとつに資格取得志向があり

により、家庭が教育の場ではなくなつて、親子のお互いの立場が友達的な関係に変化していく時代もあるということです。この頃からでしょうか。父親の威厳とも言うべき家庭内の怖い皆的な存在としての立場が次第に弱体化し、本来子供より上に立つて子供を正しい生き方に教導すべき存在としてのイメージが薄まつたようです。それでも親子の関係は宿命的なものであり、親の原点はやはり家庭で確立すべきもの。時代の流れと共に親子関係も変遷してゆくことは幾分は仕方無いかも知れませんが、「修身齊家治國平天下」の故事にある

セージをいたしましたが、子供達が日常の中で、親の発言や行動をしつかりしかも冷静に觀察していることを怖いほど思い知らされました。父親としては、普段の仕事の中で疲れきつて家庭でほっとする瞬間を見出すこともある訳ですが、少なくとも無理解でだらしない姿だけは見せないよう、そして子供達が社会に進出して行くにふさわしい姿や、他人や社会に貢献できている後姿を、多くは語らなくても見せてゆけるような父親でありたいのです。

そう言つた意味も込めて、以前から温めていたこともあります。本校においても「親父の会」を立ち上げ、子供達のよりよい生活環境の維持につとめるべく、延いては子供達の自己と社会化を図る指針となるような後姿が見せられる活動をしてゆけたらと思うところです。

一年を終えるにあたつて

生徒指導部 古野正博

今年の冬は例年になく厳しい寒さの日があり、いよいよ桜の季節を迎えた。早いもので今年度も残すところあとわずかである。年度を終えるにあたり、一年間生徒指導と述べてみたい。

生徒指導というと、校則や生活規範の遵守がまず思い浮かんでくると思う。もちろんそれらも大事であるし、基盤をなしているのは言うまでもない。しかし、表立つて見えるそれらの現象の根本をなすものは君たち自身の心である。心の状態の表れが服装や生活態度となつて表れてくるのである。おげさにいえば、今の生活態度が将来的君たちを暗示しているとも言えやしないだろう。

よく教師が用いる言葉に、「進路指導は生活指導」というものがある。進路指導をきちんとするにはまず生活指導から、といふことである。簡単に言えば、きちんとした生活態度ができていれば、おのずと進学・就職もうまいくということだ。ここで決意をもくとすることだ。ここで決して勘違いしてほしくないのが、生活態度が良い!! 真面目な生徒、ということではない。校則、モラル等を遵守するに際し自分が心に負けずにいられる心の持ち主、ということである。誰しも自分の思うように過ごしたいし、行動したいが、それらをうまくコントロールして過ごせることが大事なのである。それは勉強にもよくあてはまる。今日は疲れたから明日から頑張ろう、部活を引退してから勉強に取り組もうなどと思つていては成績は得られない。つまり自分をうまくコントロールできる人が生活面も進路面も、ひいては将来も充実させる

ことができるということである。心の底から聖人君子で生きていくことは難しい。様々な欲望が芽生えて当然であると思う。要はそこでいかにうまく気持ちを切り替えて行動できるか、そこにかかるつている。

一学期のこの欄でも述べた、「できない」のではなく、「わかつていて敢えてしない」という気持ちはぬぐい去れただろうか。これくらいの髪の長さなら、これくらいの靴の色なら・・・葛藤に負けていやしないか? 新年度という節目を迎えるにあたり、今まで自らの考え方を振り返つてみるのもいいと思う。

最近思つたこと

保健部 富田耕作

先日、体育科のある先生が「実家で採れた米です。食べてみてください。」と言つて、新米を持ってきててくれた。早速、体育科の職員で炊いて食べてみた。甘みがあり、風味が良く、噛めば噛むほど旨味が広がる大変おいしい米であった。ふと誰かが、「寒暖の差がある土地で作った米だからうまいのかな。」と口にした。そこから会話が弾み、「水がよいのではないか」とどう様な説がでたのだが、結局は何にしても作物はある程度ストレスがあつた方がおいしく実るのだろうという話で落ち着いた。体育科での何人はその発達の過程で、それ相応の障壁を乗り越えていく事で、精神的な成長を遂げていくのだと私は思う。この障壁を乗り越えるという作業には、当然それ相応のストレスがかかる。このストレスから逃れようと思つては成績は得られない。つまりことはできないわけである。また、ストレスから逃れたという事実が、新たなストレ

センター試験を終えて

進路指導部 田中和幸

今年度の大学入試センター試験は、一月十五日(土)、十六日(日)に実施されました。全国の受験生は約五十六万人、そのうち鹿児島県は、約八千人となっています。県内の受験会場は、鹿児島大学の他、鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、第一工業大学、鹿児島純心女子大学に分かれています。本校は鹿児島大学工学部で、三〇二名の生徒が受験しました。当日は、降雪の予報も出されており、様々な心配がなされました。全員が遅刻も欠席もなく元気に受験してくれました。かねての学校生活の成果が見事に表れた結果だと思っています。一日目は、地歴、公民、国語、英語の文系科目、二日目は、数学、理科の理系科目が実施されました。



センター試験会場

かねての教科の学習、LHRや総合学習の中での進路学習、これらの積み重ねが大きな力となつてきます。さらに挨拶や清掃への取り組み、部活動や生徒会活動等へ取り組み方がどのようであつたかで、その生徒の心のあり様は変わってきます。自先の利益だけを追い求めている時は、大きな成長は期待できません。かねてからしっかりと考えていく姿勢が求められます。

かねての教科の学習、LHRや総合学習の中での進路学習、これらの積み重ねが大きな力となつてきます。さらに挨拶や清掃への取り組み、部活動や生徒会活動等へ取り組み方がどのようであつたかで、その生徒の心のあり様は変わってきます。自先の利益だけを追い求めている時は、大きな成長は期待できません。

三年生は今、目の前のことには全力でぶつかつて行くしかありませんが、一、二年生は多くの時間がまだ残されています。一日一日が成長のための大切な時間だと認識し、今の自己配がなされました。全員が遅刻も欠席もなく元気に受験してくれました。かねての学校生活の成果が見事に表れた結果だと思っています。一日目は、地歴、公民、国語、英語の文系科目、二日目は、数学、理科の理系科目が実施されました。

十七日(月)は、自己採点の日になりました。本人はもちろんのこと、担任の先生方も最も緊張する一日です。この日から約二週間に以内に国公立大学の二次出願大学を決めなければなりません。平均点は十九日(水)には判明し、そして個々人の判定も二十一日(金)の朝には判明しました。極めて限られた日程

スに結びつく事もある。ストレスと上手く付き合い、克服する力が必要となつてくるわけである。今はストレスで押しつぶされ

の中で、慌ただしく自分の人生の方向を決めていかなければなりません。誰もが迷う時で大変なのですが、かねて自分の進路をしつかり考えて情報等もきちんとまとめていた生徒はあまりあわてなくてすんだはずです。ここでもかねての生活の姿勢の差が大きく表れます。

自分の進路を曖昧なままにしているところいつた時にとてもあわてることになつてしまします。決断をすることは何にしてもとても難しいのですが、自分の人生の決定を他人にまかせることはできません。もちろん保護者や教師がその手助けをしますが、最後は自分自身で結論を出し、自分の責任としてそれを背負つていくしかありません。自分の人生をかねてからしっかりと考えていく姿勢が求められます。

平成二十二年度一日遠行

体育科 森 口 洋



茶をいただきゴールまでの三キロを目指します。

男子二百六十九名、女子二百九十六名が参加し、男子トップは二年七組の伊藤宏輝君（一時間四十九分）。女子は二年二組の下小牧利紗さん（二時間十八分）大会二連覇でゴールしました。途中棄権五名を除き、五百六十名が最終到着時間内にゴールをし、うれしい完歩証を受け取りました。

当初の予定時間よりも、生徒たちの頑張りで私どもの予想をはるかに上回るタイムでゴールした経緯からも、次回は最終到着時間を三十分縮めてもいいのではないかと現在検討している次第です。

反省として、飴の包み紙がコース上に散乱している様子がありました。しかし、ある生徒が自分で持つてきた袋いっぱいに包み紙を拾つて持ち帰つてきました。大変うれしく思つたとの同時に、このような事態があつてはならないと心から思う次第でした。

最後になりましたが、PTA役員の皆様と地域の方々の協力や、寒い中最後まで途中審判の任務をしていただいた先生方に對して、遠行が無事終了できたことへの報告と感謝を申し上げたいと思います。

十一月十九日の当日は好天にも恵まれました。開会式では黒木校長から竹山ダム往復のコースに変更し、さらに昨年度からは紅葉豊かなダム湖一周を追加した約二十七キロのコースで行いました。

昨年度の経緯から、前日の準備・PTA役員の皆様との打ち合わせ会などがスムーズに運ぶことができました。

九時に女子、九時二十分に男子が学校の校庭を一周してからスタートしました。

龍門司坂を駆け上がり、提水流三叉路を駆け抜け、最初の湯茶給水所の旧JAあいら辺川支所で一休みし、上鶴原バス停から直線道路をひた走り、やつとの思いで折り返し点の竹山ダムへ登り詰めます。ダム湖は深緑に輝き、素晴らしい紅葉が疲れた体を癒してくれます。そのダム湖畔を一周すると、第一チエックポイント及び湯茶給水所です。ここでやつと往路が終わります。

給水所では保護者の方々が用意していたお茶や飴や煎餅のもてなし、そして何よりも温かい励ましを受け、元気満タン！いざ復路へ。すれ違う友をお互いに励ましたり、慰めたたり、冷やかしたりしながら、だんだん重たくなってきた足を労りながら第二チェックポイントの龍門司坂へ。ここで最後の美味しい麦



地図を手にして

二学年主任 右田郁雄

旅に出ることは未知の自分に出逢うことがかもしれない。

修学旅行が終わり夕闇の中の家路をたどるときから、もう一つの旅が始まつている。つい先程まで歩いていたアクアシティの通りとかレインボーブリッジが頭の中で浮かんでは消える。数時間前の浅草仲見世のざわめきがまた聞こえたりする。そして、もういなはずの街角に佇む自分がいる。

都心から北軽井沢へ向かつた。いつもより陽の傾きが速い。とつぶりと暮れた軽井沢の町を走り抜く頃は、長旅の疲れも手伝いぐつたりとなつていて。やがて、カラ松の木立の向こうに、宿泊ホテルの温かな灯りが、夕闇を染めながら遠来の旅人たちを迎えてくれた。

その夜は眠れなかつた。消灯時間になつても、誰一人として部屋にいない。誰が言い出

したのか、みんなバルコニーにて夜空を仰いでいる。歓声の中を獅子座流星群が流れいく。白い息を吐きながら長く待ち、一すじの束の間の光を見つめる。あのとき、みんなで遠い宇宙を見つめていたのだ。

翌朝。ぶかぶかのウエアを着込み、いよいよスキーやしなければならない。滑つてみると転んでみる。思い通りにいかない自分が歎がゆい。そうするうちに、少し伸びやかなシユブールが描かれ始めた。まだ青いけれども、一人一人の後ろに一人一人の軌跡が引かれていく。チャイムに追われたり、すべきことあるべき時間がかみ合わない日々をすつかり忘れさせてくれた。その間、浅間山がじつと黙つて見守つていた。あのゲレンデに、夜のうちに降りてきて、雪に埋もれた流星の欠片を運良く拾つた人は幾人いたどうか。今もそれを大事にポケットにしまといこんでいる人がいるにちがいない。

一人旅ではない旅は気を遣うことが多い。もし一人だつたら、と思う。こんなに大勢で



来るなんて、と思つたりする。こんなに大勢の中にいる「自分」の隣に、黙つたままのもう一人の「自分」がいる。その向こうには、がははと笑つてゐる「自分」。お互いがそんな風に思つたり、顔色のよくない別の「自分」を心配したりしている。いつもは見せない表情でバスの外を見ている人、今だから話してみよう語りかけた人。大勢の中にある、人の温もりが伝わつていたら、と思う。

学校の廊下は行き止まりであるけれど、みんなはすでに、もう一つの旅を始めている。もういなはずの街角を、あの学生街の横断歩道を、カラ松の続く林の中を。あるいは、大切なものの欠片を見いだすために、しわくちやになつた地図を人々に手にしているのかかもしれない。



竹山ダム給水所

スタートから14.4km
JA辺川から6.1km



水分&エネルギー補給「あ～ 生き返る～」



貴重な父兄協力に感謝！右から
鎌田一典 P会長
大迫秀樹 P副会長
濱崎泰弘 P副会長兼学校医
大塚英晃 前P副会長

3年生保護者の皆様に感謝!!



竹山ダム給水所は中間地点。たくさんの生徒が ほつと一息…
付近では 友人と一緒に昼食をとる姿も見られました

旧JA辺川支所給水所

往路：スタートから8.3km
復路：スタートから18.1km
竹山ダムから3.7km



各給水所とも 水の確保が
重要かつ大変な作業です

往復共に給水所で 大忙し&大にぎわい



差し入れの大きな梅干が大人気！ありがとうございました



経験者多め!今年もナイスチームワーク2年部

ストレッチで
体をほぐして
また 頑張る！

2010 加治木高等学校

第14回 一日遠行

* 創立百周年《1997(平成9年)》を記念して始まりました

〈期日〉平成22年11月19日(金)実施

〈コース〉男女共に約27km:学校～竹山ダム 往復

【学校～龍門司坂～旧JA辺川支所～竹山ダム】

〈参加者〉1・2年生 564名(男子268名・女子296名)

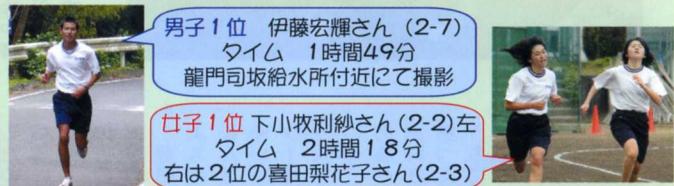
〈スタート〉女子9:00 男子9:20



感謝
厚生部長二年P 赤塚 素子

今年も加治木高校伝統の一泊遠行が無事に開催されました。先生方をはじめ多くの保護者の皆様の温かいご協力のおかげだと心から感謝しています。特に三年生の保護者の皆様には、生徒さんの参加のない中、多大なるご協力をいただきました。卒業生のお父様も遠方の赴任先から駆けつけてください、胸の熱くなる思いでした。

高校生になり、自分の手を離れた様子の娘ですが、これほどたくさんの方に支えられ、育てていたいたいのだだと実感します。一日遠行は、加治木高校の生徒さんたちとふれ合える貴重な一日でした。来年もすばらしい一日遠行の開催されることを祈っています。



男子1位 伊藤宏輝さん(2-7)
タイム 1時間49分
龍門司坂給水所付近にて撮影

女子1位 下小牧利紗さん(2-2)左
タイム 2時間18分
右は2位の喜田梨花子さん(2-3)



龍門司坂給水所

復路：スタートから24km
JA辺川から5.9km

往路を見送った後に給水所の準備を整えて復路の到着待ちます



小野裕美先生(事務室)も参加
祝「いぶしき葉の花マラソン」
(H.23.1月)フルマラソン女子優勝
(タイム3時間13分24秒)

長教頭先生も
チェックポイント
を無事通過

先生、助けて！
足がつりました



給水所支援初経験の方が多い1年部。来年もご協力お願いします！



“ありがとう 加治木高校”

3月1日、第63回卒業生が、旅立ちます。加治木高校での思い出や卒業によせる気持ちを4名の保護者の方にお書きいただきました。

題字：米丸貴之先生（芸術科 書道）

卒業



卒業によせて

三年P 杉木 尚代

娘の入学から息子の卒業までの五年間、親子共々本当にお世話になりました。

子どもたちにとっては、勉強に部活に行事に、忙しくも充実した高校生活でした。厳しい生活の中だからこそ志を一つにするたくさんの友達に恵まれ、日々叱咤激励し熱心に導いて下さった先生方のおかげで、精神的にも少しずつ成長していったように思います。

P.T.A活動にも参加させていた

だき、行事を通して加治木高校生

の知性と創造力と情熱に触れ、毎

回感動することときりでした。

子どもたちにとって、この学舎

で培った精神力を数え切れないほ

どの素晴らしい思い出が、これから人生の転機を迎えるたびに心の

支えになってくれることと思いま

す。



男子バレーボールの仲間 & 顧問の 駒木平 豊先生

平成22年5月
県総体
鹿児島商業戦



廿子テニス部
地区大会団体の部
春秋通算16連覇!!



H21九州三位校大会 準優勝!

心の成長を願つて

三年P 福留 修

体力づくりに始めたテニスも、大会で知り合った友達が刺激となり、試合に勝ち進む喜びを知りました。

娘の決意に大きな声援を贈る為に大会会場へ・・・この三年間は「ありがとうございます」だけでは言い表せない程、先生方、生徒の皆さん、保護者の皆様に支えて頂きました。

入学と同時に空手道部への入部のお誘い、少し迷いながら・・・この三年間は「ありがとうございます」だけではなく、「やるからには、負けたくない! インターハイに行く!」

それからこの三年間に娘は多く

の友人達や尊敬する先生方、そし

てコラス部の素敵な先輩方や、

かわいい後輩達に恵まれ、毎日を

生き生きと楽しく送ることができ

ました。

私も娘が一年生の時に役員

をさせていただき、多くの良き出

会がありました。遠行やJ.O.B

の時など選手としての成長は、

ありました。

私が本格的でとてもおいしくて、

後ほどレシピを教えてもらつたり、

また受験についてのお話を聞かせ

ていただきたりと多くの事を学ば

せていただきました。今でもその

時のメンバーで時折集まるこ

とがとてもうれしくて、今後もこの

ご縁が長く続きますようにと願つ

ています。

ありがとうございます 感謝致します

三年P 川畠みどり

「やるからには、負けたくない!
インターハイに行く!」

懐しの母校に保護者として訪れた日、遙か昔の記憶が鮮やかに甦っていました。

たのめんなかった時代、

お世話になりました。

中学生の頃は、

何でも自分でやる

のが好きでした。

でも、何でも自分でやる

のが好きでした。

でも、何

卒業おめでとう

教頭福迫真見

昨今、科学技術の進歩はめざましく、情報化社会の到来で産業構造は大変な速さで変化している。国際情勢の急変

そんな中、日本は未だ閉塞感が漂う。経済の停滞、千兆円もの国の借金、口蹄疫や鳥インフルの蔓延、最近は新燃岳の噴火による甚大な被害など、まさに危機感が高まっている。

岳の噴火などあればきりかない、卒業する皆さんには進学先の生活に夢を描きながらも、将来への一抹の不安を抱いていることだろう。

てみよう。就職したら一生安泰という職業はもうないであろう。憧れの日航機長さえ解雇される時代である。企業は生き残りをかけて、先見性と重き高

い労働力を海外にまで求めている。弁護士、歯科医師、薬剤師、医師も増えしており、競争の激化は避けられない。

ろか早期退職やリストラも考えられる。時代は混沌としている。だからこそ眞の実力は高く評価され、また成長し続

さて皆さん、チャンスの神様には前髪しか無いということをご存じだろうか。周到に準備し待ち構えている者の方々、チャンスを逃さないでください。

さつと現れさつと去っていく。迷わず掴まえないと後ろ髪は無い。覚えておいて欲しい。

い局面に果敢に挑戦し解決していく熱意こそ学生時代に学ぶ大切なことだろう。適性なんて言わず、好きなことを

・・・そんな気概がチャンスを呼ぶ。
いつの日か龍門講座で後輩たちに、
君の話をして欲しいと願つてゐる。待
つてゐる。

新世界へ旅立つみんなへ

教務主任 森 孝志

本校に赴任した年の年度末、合格者
集合の日のことでした。

の同級生のAさんでした。彼女は、私も新入生の保護者と思いつ込んでのことです、本校で教鞭を執っていると知つて驚いてしまいました。

私は、これを機に「保護者に同級生・
同窓生が多いはずだ」と認識させられ
「母校で教える」ことにプレッシャー
(つりようしゃ)を感じました。

の方はと言うと、自らPTA理事を引き受けたり、同窓会活動へ積極的に関わったりして、頼りになる存在でした。

皆さんが歯科検診や健康福祉学で大変お世話になつた学校医の古川先生です。龍門講座の講師との連絡・交渉の役や同僚会議での多回に亘る打合せに

くれました。

PTA係を担当した時、PTA活動に
関しての様々な助言はもちろん、何事
にも前向きで細やかな気配りを感じ、

三者三葉ではあります、同窓生の紳の強さ・良さ・有り難さというものを痛感させられます。

「一体何を教えてきたのだろうか、何を伝えられたのだろうか」という思いに駆られます。

生の皆さん、クラスや部活動で育んだ精神的・肉体的な糧を大切にして、今後の人生を歩んでくれることを期待しています。これまでの同級生という横

部活動大会参加及び入賞記録



3 年生激励会